報告第１号

令和５年度事業報告

［総　括］

令和 5 年度は、新型コロナウイルス感染症法上の位置づけが 5 類感染症になり、これまでの行政が様々な要請・関与をしていく仕組みから、個人の選択や自主的な取り組みを基本とする対応に転換することとなった。これにより毎日報道されていた患者数や死亡者数に一喜一憂することが無くなった。

異常気象により、ここ数年は暑さに悩まされているが、今年度は観測史上最高の猛暑となり、9 月末までで真夏日（30 度以上）は 87 日を記録し、約 3 カ月もの間、思うように就業をすることが出来ず、暑い日々を過ごすこととなった。

また、元日には能登半島地震が発生し、隣県の坂井市にも強い揺れが響き、地震の怖さを再認識させられた。3 月には、待望の北陸新幹線福井・敦賀が開業され、連日テレビで報道されるなど盛り上がりを見せ、明るい話題となった。

このような中で、今年度の通常総会は、全会員に参加を呼びかけ、ハートピア春江大ホールで通常通り開催することができた。また、10 月には県シルバーフェスタ、清掃ボランティア活動の参加や、事務所を春江支所に移してから初めてとなるシルバー元気祭りを、春江中コミセンの中部ふれあいのつどいと同日開催するなど、多くの人で賑わいを見せた。

受託事業は、昨年度終了した小中学校清掃業務により、今年度は大幅な減額になると思われたが、イベント等はコロナ禍前と同様に開催され、それに伴い会員の就業も増えたため、前年度対比 98.0％にとどまった。

また、派遣事業については、新規で多くの企業と契約を結べ、3 年連続契約金額 1 億円を超えることができ、前年度対比 101.4％となった。

１　**会員拡大**における新規会員の入会促進では、令和 4 年度にホームページから入会説明会の申込や必要な書類の入手ができるようになった他、今年度からは、ハローワーク三国と春江町以外 3 町のシルバー専用の箱に、入会申込用紙を一式備え付けして、遠方の入会希望者にも自由に持ち出し出来るよう対応した。

また、拡大余地の大きい女性会員の確保を積極的に進めるため、女性理事を中心としたプロジェクトチームを立ち上げた。女性ならではの企画で各種講習会を開催し、情報の発信と同時に認知度を上げていき、女性会員の勧誘を推進した。

昨年度好評であった入会キャンペーンを本年度も行い、平成 27 年度以来、8 年ぶりに入会会員数（124 名）が退会会員数（119 名）を上回り、3 月末日の会員数は 989 名となり、前年度と比べ 5 名増やすことができた。

２　就業の増強では、毎年受注依頼の多い屋外作業の担い手・後継者不足を解消するため、7 月に草刈講習会を開催し、主に肩掛け草刈機の使用方法について学んだ。

また、市が推奨する「人に易しいデジタル化」の実現を目指して、スマートフォン教室を開催した。就業先においては、パソコン・タブレットを使用した予約受付やスマホ決済などに対応するため、全会員に参加を呼び掛け、113 名の会員が受講した。

受託事業の受託件数は、昨年度に比べ 7,041 件と 414 件減少となり、契約金額は 4 億 4 千 6 百万円と昨年度より 9 百万円の減額であった。

派遣事業は、受託からの契約変更や新規の受注を獲得したことにより、昨年度に比べ件数は 802 件と 103 件増え、契約金額は 1 億 3 千万円と 1 百 7 十万円の増額となった。

３　安全就業への取り組みでは、「坂井市シルバー人材センター作業中」と記載されたカラーコーンを作成し、安全対策と周囲に PR も兼ねて屋外作業で積極的に活用した。

今年度は観測史上最高の猛暑となったため、萌木だよりと携帯ショートメッセージで注意喚起のお知らせと、安全パトロールで声掛けを何度も行った。

3 月末日の事故発生件数は 13 件（昨年度 24 件）となり、昨年度に比べ 11 件の減少となり、安全就業への取り組みが成果を上げていると思われる。内訳は、傷害事故 9 件（昨年度 13 件）、賠償事故 4 件（昨年度 11 件）と賠償事故が大きく減少となった。

４　財政基盤の確立では、福井県の最低賃金の改定に合わせ、坂井市に令和 6 年度からのセンター配分金単価の改定をお願いした。

また、社会情勢の変化や物価が高騰する中、事務費率を 8%から 10%に引き上げ、安定した財政運営を行った。